



次期学習指導要領に向けて

出典：「令和7年5月22日 中央教育審議会 教育課程企画特別部会資料Ⅰ-Ⅰ」

情報活用能力の育成

「人」台端末の活用が進み、生成AIが普及する中、「**デジタルとリアルを融合した学習者中心の学び**」、「**子供がICT等を活用しながら学びのプロセスを自ら決定する授業**」の創造が急務となっています。

そうした中、次期学習指導要領を議論している中央教育審議会の教育課程企画特別部会が、情報活用能力向上に係る改善の方向性を示しました。

小学校では総合的な学習の時間を中心に一定の時間を確保し、中学校では技術・家庭科の技術分野で学ぶ内容を大幅に拡充し、高等学校は情報科の内容を更に充実させる。



同部会は、**学びを自律的かつ探究的にするための情報活用能力の育成**を目指して、次のことについて提言を行っています。

- 探究的な学びの学習過程における情報の収集、整理、表現などの学習場面で機能するものとして情報活用能力を明確に位置付ける。
- 情報活用能力の学習内容を、探究的な学びのプロセスを自律的に駆動するために必要となるものとして明示し、小学校段階で教育課程上の確保を行う。
- 技術・家庭科の技術分野を、情報技術の理解を伴う情報活用能力の育成の中核とする。併せて、技術分野と家庭分野は、別教科として位置付ける。

教育の目的

実業家 渋沢栄一

教育の目的は、ただその学生の天賦（てんぷ）の本性を発揮せしむるに在る。

出典：「渋沢栄一 一日一言 人間力を高める言葉」（致知出版社）

※ 目的達成に必要なのは、「信じて待つ」ことだと考えています。